

感染症についてのお知らせ



墨田区保健所 保健予防課 感染症係 区役所 3階
電話 03-5608-6191(直通) FAX 03-5608-6507

平成30年
9月号

東京都内の感染症流行情報

RSウイルス感染症、伝染性紅斑は比較的高いレベルで推移しています。
流行性角結膜炎は増加傾向にあり、今後の動向に注意が必要です。
手足口病、ヘルパンギーナは一部、報告数の高い地域が見られます。

感染症のお知らせ

RSウイルス感染症について

<RSウイルス感染症とは>

RSウイルスによる呼吸器系の感染症です。患者の75%以上が1歳以下の小児で占められています。

<原因と感染経路>

病原体はRSウイルスです。

患者の咳やくしゃみなどのしぶきに含まれるウイルスを吸い込むことによる「飛沫感染」が主な感染経路です。その他、ウイルスが付着した手で口や鼻に触れることによる「接触感染」もあります。

<症状>

潜伏期間は4～6日です。症状としては、軽い風邪症状から重い肺炎まで様々です。低出生体重児、心疾患、肺炎疾患、免疫不全のある方は、重症化のリスクが高いと言われています。初めて感染した場合は症状が重くなりやすいと言われています。

乳幼児期、特に1歳以下でRSウイルスに初感染した場合は、細気管支炎、肺炎といった重篤な症状を引き起こすことがあります。

<治療>

特別な治療法は無く、症状に応じた対症療法が行われます。

<予防のポイント>

予防接種はありません。予防には、手洗い、うがい、咳エチケットが有効です。早産児や慢性呼吸器疾患を有するハイリスクな乳幼児には、重度のRSウイルス疾患を予防するためにバリビズマブという薬を使用する場合があります。使用については医師の判断になります。

<登校(園)の目安>

呼吸器症状が消失し、全身状態が安定している場合は登校(園)が可能です。

風しんについて

関東地方で風しんの届け出が大幅に増加しています。多くは30代から50代の男性が占めています。今後感染が拡大する可能性がありますので、より一層の注意をお願いします。

<風しんとは>

風しんは風しんウイルスによる感染症です。風しんウイルスの感染経路は「飛沫感染」で人から人へ感染が広がります。感染後2～3週間(平均16日～18日)たってから発熱、発疹、リンパ節の腫脹が出現します。発熱は患者全体の半分にみられる程度ですが、大人では高熱や発疹が長く続いたり、関節痛を認めたり、小児より重症化することがあります。また、脳炎や血小板減少性紫斑病を合併するなど、入院が必要となることもあり、決して軽視できない病気です。

風しんに対する免疫を持たず妊娠中(特に妊娠初期)に感染した場合、胎児が風しんウイルスに感染し、白内障、先天性心疾患、難聴などを持った赤ちゃん(先天性風しん症候群)が生まれることがあります。

<風しんの予防接種を受けましょう>

有効な予防は風しんワクチン接種です。

定期予防接種として、麻疹・風しん混合ワクチン(MRワクチン)を接種します。標準的な接種期間は、以下のとおりです。まだ、予防接種を受けられていない方は早めに受けてください。

1期 1歳以上2歳未満

2期 5歳から7歳未満で小学校就学前1年間

定期接種期間を過ぎた場合でも、18歳以下の方については接種費用の公費負担を行っていますので、ご希望の方は墨田区保健所保健予防課感染症係までお問い合わせください。

<大人の風しん抗体検査と予防接種費用の助成を行っています>

墨田区は、先天性風しん症候群の予防のため、妊娠を予定または希望している女性とそのパートナー(妊婦の夫を含む)を対象に風しん抗体検査と予防接種の費用助成を行っています。お申込み、お問い合わせは、墨田区保健所保健予防課感染症係までお願いします。

お問い合わせ・お申込み

墨田区保健所保健予防課感染症係 電話 03-5608-6191

このお知らせは、東京都感染症情報センター(<http://idsc.tokyo-eiken.go.jp/>)の情報及び東京都健康安全研究センターが集計を行った「東京都感染症発生動向調査週報」(<http://survey.tokyo-eiken.go.jp/epidinfo/>)を基に作成しています。